

はじめに

みなさんは「ソサイエティ5.0」という言葉を聞いたことがありますか。大昔の狩りや猟が中心だった社会がソサイエティ1.0、農耕が中心だった社会がソサイエティ2.0、工業社会がソサイエティ3.0、情報社会がソサイエティ4.0で、現在はソサイエティ5.0という情報化による革新がさらに進んだ社会であるという意味で使われている言葉です。この本の中に出てくる「SNS」「電子マネー」「プログラミング」などによって、産業や人々の生活の様子が大きく変わる時代を表しています。これからみなさんは、そんな時代を生きていくわけです。

多くのみなさんが将来、産業社会へ出て働くようになることを考えると、こうした社会の変化に関心をもっておくことはとても大切なことです。この本は、小学校第5学年の社会科の内容「情報を活かして発展する産業」の学習に活用できるように作りましたが、それだけではなく、未来の社会へ手を伸ばして成長していこうとする多くのみなさんに読んでいただきたいと思っています。

これからの社会は、多種多様な情報を大量かつ迅速に活用することで、これまでの社会の変化とは次元が異なるスピードで変化し、人々が予想できないくらい大きく変わろうとしています。ますます便利になる一方で、気をつけなければいけないことも増えてくることでしょう。この本の続きは、みなさんが自分の力で情報を活用して調べ続けていく必要があるかもしれません。そして、明るく豊かな未来社会を目指していったほしいと思います。

国土舘大学 澤井 陽介

もくじ

世の中は情報であふれている!? 4

運輸業

1 物流会社 — ホームロジスティクス 6

2 宅配会社 — ヤマト運輸株式会社 12

3 バス会社 — 西鉄バス 16

4 鉄道会社 — ゆりかもめ 22

観光業

1 旅行会社 — JTB 24

2 観光地 — 長崎国際観光コンベンション協会 30

— 北海道・ニセコ 34

— 京都・大原三千院 35

知っておきたい情報キーワード 36

さくいん 39

宅配会社

—— ヤマト運輸株式会社

② 都合に合わせて荷物を受け取れるように

インターネットや電話で注文をした商品が家に届けてくれたり、自分では運べない荷物を届けてくれるのが宅配業者。

ここでは「宅急便」でおなじみのヤマト運輸に、どんな情報をどう活用しているか話をきいてみましょう。



宅急便で商品が家に届くまでの情報の流れを見てみよう

① インターネットで商品を購入



「自宅で受け取り」「コンビニエンスストアで受け取り」などの情報を選んで入力します。

② 商品の配達

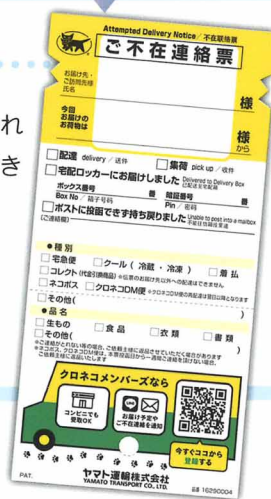


配達のおおよその時間帯を指定することもできます。その時間帯に届けるように、各地にあるヤマトのお店から商品が配達されます。

③ 商品の受け取り



到着予定の時間に家にいれば荷物を受け取ることができます。



商品を受け取れなかった場合は、配達スタッフが「ご不在連絡票」をポストなどに投入しておきます。受け取る側は、連絡票に書いてある電話番号に連絡をしたり、ホームページで指定をしたりして、再配達の手配をします。

情報の活用1

情報を端末にまとめて効率化する

荷物管理システム

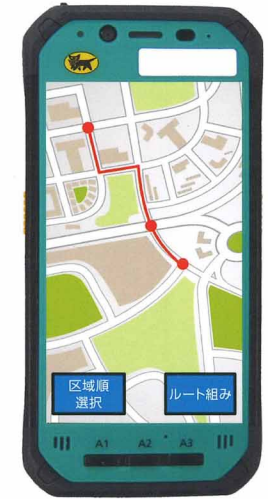
使う情報

- 荷物の届け先
- 荷物の配達状況

端末のコンピューターが配車ルートを知らせる

ドライバーは、PP（ポータブル・ポス）と呼ばれる端末を持っています。この端末でバーコードを読み取ると「いつ」「どこに」配達するのかがわかります。

そして端末のコンピューターは、たくさんある荷物をどの順序で配達すればいいのかを、ドライバーに教えてくれます。



端末のコンピューターは、配達ルートをドライバーに知らせます



- 効率的に荷物を運べる
- 荷物の配達状況が確認できる



荷物管理システムによって変わったこと

荷物に関する情報を端末のコンピューターにまとめる「荷物管理システム」によって、配達の作業が簡単になったり、お客さんが荷物の状況を確認したりすることが可能になりました。



成城支店
小笠原支店長

端末のコンピューターが荷物情報を管理

荷物が運ばれると、荷物の配達状況が、コンピューターによって管理されます。荷物を送った人は、ヤマト運輸のホームページに伝票の番号を打ち込むと、送った荷物が配達中かどうか確認することができます。

このように荷物に関する情報を全てまとめているのが「荷物管理システム」です。

会員登録サービス

個人情報の登録で より便利なサービスを受けられる

1人暮らしや共働きの家庭が増えているため、荷物の受け取りができず、再配達を依頼するケースも多くなっています。なかなか荷物を受け取れないとお客さんの負担になりますし、配達するドライバーの負担にもなります。

こういった問題を解決するのが、クロネコメンバーズという会員登録サービスです。自分の名前や住所などの連絡先を登録しておく、便利なサービスが利用できます。

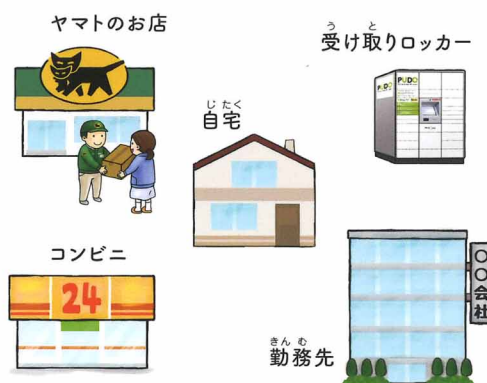
考えてみよう

1巻で紹介したコンビニエンスストアが、ここにも登場したね。
いろいろな産業が協力し合いながら、社会を形作っているんだね。他の巻にも、協力し合っている例がないか、探してみよう。



使う情報

- 名前や住所などの届け先
- 配達予定日時



荷物を受け取れる場所は、どんどん増えています

「コンビニでの受け取り」を選ぶと、夜遅い時間でも受け取れるから便利だね



届けてほしい日時の指定や 受け取る場所の選択も可能に

クロネコメンバーズに登録しておく、配達の前にお知らせがくるので、荷物が届く前に配達時間を変えたり、荷物の受け取る場所を変更したりすることができます。

このサービスによって、再配達の数が減ったので、配達するドライバーの負担を減らすことができました。

LINEで簡単に再配達できる

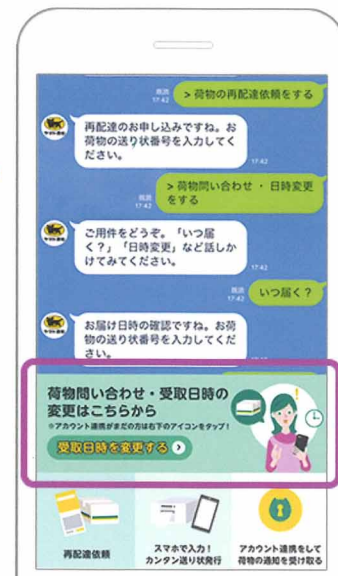
スマホのメッセージアプリ・LINEを使って、手続きができる方法もあります。LINEで「ヤマト運輸」と「友だち」になり、クロネコメンバーズのクロネコIDと連携すると、簡単にサービスを利用できるようになるのです。

LINEのトークでお届けの日時が変更ができるほか、配達状況の確認（配達中か、配達前かなど）ができるようになり、LINEでお届け予定の通知を受け取ることができます。



「ネコピット」で送り状を印刷できます

送り状まで機械でできるなんて便利ね！



LINEの画面で「いつ届く?」「配達状況」と質問すると、AI（人工知能）が回答してくれます。

「送り状」もLINEで簡単に作成

荷物を送る時、荷物に貼る「送り状」が必要です。手書きだと、書くのに時間がかかりますが、LINEの登録画面に送り先の住所や名前を入力しておけば、近所のヤマト運輸のお店に設置されている「ネコピット」という機械で、送り状を印刷することができます。

- 受け取りの日時や場所を、簡単に指定・変更できる
- 送り状を手書きする必要がない